

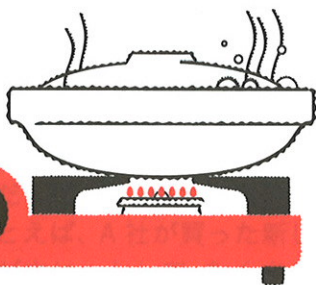


会員のみなさんから寄せられたお葉書をご紹介します。

京都府

N・Nさん

長い間お世話になり、ありがとうございます。主人がなくなって15年、子どもと3人で共にがんばってきました。まだ、現在の状況に満足のいくという気持ちはまだ持てていません。この不況の中で、全く収入の無いときもありましたが、育成基金が支給されることは、生活の安定でもあり、安心感もあり、子育てをするうえでも大きなものとなっていたに違いありません。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この度、長男が19才になり、満期を迎えたわけですが、その長男も大学生となり、時間の流れを感じずにはられません。将来に向けて子どもも私も未知なる可能性を信じて、がんばりたいと思います。あとふたり、お世話になっておりますので、宜しくお願い申し上げます。



大阪府

W・Wさん

長年にわたる給付、ありがとうございます。折々のお祝い金などもうれしく、心丈夫な思いがしました。長男は浪人中で、基金は来年から彼の学費として使う予定です。学費の用意ができているということだけでも、たいへん安心感があります。基金が終了するときのことは、思い掛けないほど、幼いうちから加入していた子でしたが、それなりに成長いたしました。これからも交通遺児の支えになればと、貴財団の発展を祝っております。

山梨県

Y・Tさん

娘が亡くなって、今年の12月で3年になります。4才だった孫が7才で一年生になり、「テーマキャンパス」を楽しみにして、自分で考えて描くようになりました。3年間夢中で過ごしてきましたが、孫が本当に成長してきました。基金に加入させていただきまして、いろんな面で助かっています。今は「スマイルズ」が来るのをふたりで心待ちにしています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

静岡県

K・Kさん

長い間見守っていただきまして、大変ありがとうございました。主人を突然の事故で失い早いもので今年で13年になります。

事故から何年も何年も受け入れることができず、後ろばかり向き、思い出しては泣いてばかりいました。今思うと、ふたりの子どもたちのほうが、早く受け入れ前を向いていたように思います。後ろを向いているときは、人に感謝することも忘れ、大勢の人が自分を心配してくれていることにも気づかず、自分で自分を不幸にしていました。世の中には、辛い思いをしている人が、たくさんいます。自分は幸せだと思います。

子どもたちも元気に育ち、いつでもどこにいても、主人が見守ってくれています。これからも元気に子どもたちと支え合っていこうと思います。

広島県

H・Kさん

いつもお世話になっております。また、春には橋本給付金より、時計を送っていただきありがとうございました。今、子どもは、不登校であった子ども達を積極的に受け入れてくださっている全寮制の学校に在籍しております。父親を突然に失って以来、たくさんのことがありましたが、今やっと少し落ち着いてきました。寮に入ることに、少しためらいもあったようですが、頂いた時計も持たせて送り出しました。これからもよろしく願いいたします。



福井

M・Sさん

初秋の空がさわやかな季節、法人基金の皆様におかれては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、給付完了のお知らせをいただきましたが、10年の長きに亘り私たち家族を励まし、そして基金による支えをいただきまして、心より御礼申し上げます。

我が家族について触れさせていただきますと、父、母、妻、そして長女、長男、次男の3人の子どもたち、平凡な人生と怠惰になりつつあった39才の地方公務員に、それはあまりにも突然やってきました。残業していた私に、病院から事務所へ電話があり駆けつけ、妻を見たときのことはいまだに言葉になりません。子どもを塾に送りその帰りで、相手は飲酒運転で対向車線へ急

にはみ出たそうです。

母が腎臓病で、長く人工透析を受けていて、妻が看病についていたことから、医院長はじめ看護婦の皆さんとはお付き合いもあり、病院をあげ献身的な治療をしていただきましたが、甲斐なく5日後意識が戻らないまま息をひきとりました。37才の短くも、家族にそして地域に尽くした人生でした。

その後のことは筆舌に尽くしがたいことばかりで、特に子どもに事実を話し聞かせたときのことは、一生忘れることができないでしょう。葬儀のあとに待っていたものは、家事のほとんどを妻にまかせっきりにしていたため、そのすべては我にかえり、食事作りに始まり、子ども3人の育児教育、母の看病、父が携わっていた農業の手伝い、それに公務、ふと自分の手を見たとき、切り傷と荒れで主婦の手になっていました。本当に悲しんでいる暇はありませんでした。

子どもらも、今置かれた家の状況を理解して、決して料理にも文句は言わず、私の前では、母親の話すらしませんでした。その気持ちを思うと、今までは気づきもしなかった親子の絆を感じずにはいられませんでした。

過去に逃げ出したくなる自分を抑えるために「前のみを向いて生きていこう」と決めていたのですが、ある夜アルバムを開いたとき、涙が止まらず、声を出して泣きました。

そして、解りました、子どもたちは「もっと悲しんだ」と。

2年後には看病の甲斐なく、母も妻に続きました。

子どもたちは、学業、スポーツとがんばり、家事も助けてくれるようになりました。

この頃から教育に費用がかかるようになってきました。現在4年、3年、1年と揃って大学生です。基金は助かりましたが、3人への仕送りはまだ続きます。

3年生と1年生の息子たちは共にゴルフ部に所属しております。特に次男は中学を卒業後、家を遠く離れ、ゴルフ部のある高校へ進学し、一人暮らしを経験しております。それぞれがしっかりとした目標と自覚を持って成長してくれているので、うれしい限りです。

父はここ数年、体調を崩し、次男の活躍を喜びとしてがんばっておりましたが、大学進学を見ることなく、本年他界いたしました。

気がつけば家には私ひとりとなりましたが、走り続けてきたこれまでの、仏陀の言葉にある「生きるのではない、生かされているのだ」を忘れずに、これからはいくつ歩いていこうと思っております。長い間、本当にありがとうございました。



※スマイルズ編集部では、保護者の皆様からのお便りも募集しております。
お子様の成長の様子、普段の生活であったことなど、どしどしお送りください。

また、めでたく給付完了される方は、後続く皆さんの励みになると思いますので、お送りした返信用はがきに給付完了のご感想を書いてお送りください。